

FD NEWS

No.15 2006年1月25日

摂南大学 FD 委員会

〒572-8508 寝屋川市池田中町 17-8

TEL: 072-839-9106

E-mail: kyomu@ofc.setsunan.ac.jp

摂南大学

大学改革の中核としてのFD活動

学長 森本 益之

2005年1月の中央教育審議会答申「わが国の高等教育の将来像」によれば、21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」の時代とされ、今後の社会における高等教育の重要性が指摘されるとともに、高等教育の中心たる大学の公共的役割と社会的責任の自覚が求められています。そして、大学が自律的選択に基づいて機能別に分化するなど全体として多様化が進むにつれて、学習者の保護や国際的通用性の保持のため、高等教育の質の保証が重要な課題となり、高等教育機関は、教育・研究活動の改善と充実に向けに不断に努力することが大切であると強調されています。

また、これまでの大学改革の動きを振り返ってみれば、1987年に創設された大学審議会が、その審議の三本柱として、教育研究の高度化・組織運営の活性化とともに高等教育の個性化を提示し、高等教育の質の確保の仕組みを転換するための大学設置基準の大綱化、ファカルティ・ディベロップメントや教員資格における教育能力の重視など責任ある授業運営と厳格な成績評価、情報通信技術の活用促進等を提言しました。それに伴い、全国の大学で自己点検・評価の実施、シラバスの作成、学生による授業評価(アンケート)、ファカルティ・ディベロップメントの実施等が行われるようになり、大学教育の質を改善する取組みが進められてきました。本学におけるさまざまな教育改革の展開も、こうした全国的大学改革の動向と軌を一にするものであり、トータルにみれば21世紀におけるわが国の高等教育ならびに大学の将来像と密接に関わる歴史的使命を担っているといわなければなりません。

とりわけ、ファカルティ・ディベロップメントの活動は、これまで大学において必ずしも重要視されてこなかった教員の教育力向上に資するものであり、大学進学率の上昇に伴って急速に大衆化した学生層に対し真に効果的な授業を提供するための教員団の努力を具体化するものとしてきわめて重要な意義をもっています。本学では、FD委員会の尽力により、毎年実施されている学生による授業アンケート、授業公開、FDフォーラムやFDニュースの発行が、教員層の教育力向上に対する意欲の啓発に大きく貢献しています。私は、これまでの委員会のご努力に敬意を表するとともに、今後のFD活動の更なる進展を期待致しております。これからの大学においては、研究の推進のみならず学生に対していかに魅力的な教育を提供するかが大学の社会的評価を決定する鍵になりますが、それは教員集団の創意工夫によって可能となるからであります。お互いに知恵を出し、協力し合って多彩なFD活動を展開し、「改革」を着実に進めていきたいと念願する次第です。

摂南大学第 11 回 F D フォーラムの講演報告概要

特別教育期間中の 11 月 1 日、第 11 回 F D フォーラムが下記のとおり開催され 108 名の教職員の方々が参加して熱心な議論がなされました。

テーマ：「誰のための何のための授業公開か？」

日 時：2005 年 11 月 1 日（火）13：00 - 15：30

場 所：寝屋川キャンパス 5 号館 552 教室

講演に先立ち、森本新学長から開会の挨拶があり、次いで和歌山大学経済学部助教授・吉田雅章氏による「和歌山大学の F D を支える公開授業と検討会の実施」の講演がなされました。続いて、摂南大学法学部教授・三成美保氏「摂南大学における授業公開 - 現状と課題」、同薬学部教授・荻田喜代一氏「薬学部における授業公開の現状と問題点」、同工学部助教授・熊谷樹一郎氏「授業公開に関する問題提起」の 3 つの講演・報告が行われました。

引き続き、四氏の講演を基調とした「パネルディスカッション・質疑応答」が行われ、会場の参加者からも多くの意見・質問が出されて活発なディスカッションが繰り広げられました。

当日の講演者の方々から、ご多忙中にもかかわらず講演報告概要が寄せられましたのでここにその全文を掲載させていただきます。

和歌山大学における 7 年間余の F D の取り組み

吉田雅章（和歌山大学経済学部）

公開授業 & 検討会の意義

本講演の趣旨は、公開授業 & 検討会が授業改善に関して学生による授業評価よりも極めて有意義であることを強調することであった。

すなわち、従来は F D といえば学生による授業評価のことを指すと言っても過言ではなかった。また、大学の外部評価(第三者評価)においては必ずといってよいほど学生による授業評価を実施することが要求される。しかし、果たして学生による授業評価は授業改善に有効なのであろうか。もし、毎回、実施できれば授業の振り返りに非常に有意義である

はじめに

- 和歌山大学の概要
- H10 F D 研究会
- H11～15 F D 推進委員会
- H16・17 授業評価・改善推進部会
- 3 学部と基礎教育の組織
- 学生による授業評価



とは思う。また、全く授業改善に取り組まない教員に対する威嚇的效果(尻叩き効果)は存在

検討会における討議の柱

1. 基本データ
 科目の学部学科での位置づけ
 本日の講義の科目全体での位置
 受講登録数、何回生主体か、
 実質受講者数など
 その他の必要な情報
2. 「講義目的・講義目標・講義のねらい」と「講義内容(教育内容)」

すると思われる。しかしながら、率直に言って、半期に一度の学生による授業評価が授業改善にどれほどの効果があるのか、極めて疑問であると言わざるを得ない。

それに対して、公開授業&検討会は他の教員に講義を参観してもらい、当該講義終了直後に検討会を開催して意見交換するものであるが、時間と労力の問題を除けば、当該講義の振り返りにとっ

て極めて有益であり、参観教員にとっても他の教員の授業テクニックを盗み取る絶好の機会でもある。少なくとも和歌山大学における7年間余りのFD活動を通して自分なりに下した結論である。(ただし、残念ながら、その労力と時間の問題のために参加者が全く伸びないという点に問題がある。)

続・検討会における討議の柱

3. 講義方法
 使用教材の内容とその効果
 教育技術面からのコメント
4. 評価
 ・学生の講義による学習効果の把握(例:小テストの利用)
 ・教員自身の「講義目的達成度」
 ・講義実施直後のアンケートによる学生動向の把握

和歌山大学の現状

以下には、授業公開(公開授業&検討会)に関して、摂南大学法学部の三成美保教授よりご提示いただいた論点の中のいくつかについて、現時点における筆者の考えあるいは和歌山大学の現状について述べてみたい。

授業公開の目的は授業改善のためであり、外部評価(たとえば大学認証評価)のためではない。しかし現時点では本末転倒になってしまっているかもしれない。少なくとも和歌山大学でFD活動は相当に嫌われていると言っても言い過ぎではないと思われる。

授業公開に対する取り組みの経緯は、京都大学高等教育教授システム開発センター(現・高等教育研究開発推進センター)の先生方に実施してみることを勧められ断り切れなかったことと、和歌山大学のFD関係者が簡単にその言葉に乗ってしまったことに始まる。

和歌山大学における授業公開に対する教員の意見分布は圧倒的に賛成論が多く、反対論は存在しないのかもしれない。ただし、公開授業&検討会に自発的に参加してくれる教員は極めて少ない。従って、多くの教員のホッネは公開授業に大反対なのかもしれない。

授業公開の効果と弊害(学生にとって): 講義の受け手である学生にとっては極めて良いことではないかと考える。講義担当者は少しでも良い講義をしようと必死になって頑張るのが通例であり、公開授業の参観者の立場から見ても弊害はほとんど感じられなかった。

授業公開の効果と弊害(教員にとって): 講義の担当者の多くは災難と考えているのではなかろうか。ただし、自分の腕の見せ所と考えていた、講義の非常に上手な教員が少なからず存在したことも事実であった。

授業公開のコストと手間：当該講義の目的・狙いその他を参観者に参考資料として配布してくれるか否かは公開授業の担当者により種々であった。できれば配布してもらいたかったが、強制すればその手間を面倒がって引き受け手が無くなると考えたので強制はしなかった。筆者は10回ほど公開授業を担当したが、普段の講義に比較すれば明らかに大きな負担であった。また、検討会の発言録もアルバイトを雇用して作成してもらっているの
で、公開授業&検討会のコストは決して少ないとはいえない。

授業公開に対する教員のアレルギー(反発・無関心・非協力)は半端なものではない。平成11年6月より現在までそれを克服しようと様々な努力をしているが全く払拭できないでいる。平成17年秋には、学長が全学部の教授会でFD活動に参加するよう非常に強く呼びかけても改善の兆しがほとんど見受けられない。

授業公開を教員業績評価(昇進や報奨金など)の一環とすべきか否か? :これを肯定すれば公開授業&検討会はおそらく盛んになるのではないかと考える。個人的にもそうしてほしい(自分には大いに利益になる)。しかし、アメとムチでFDを奨励してゆくような方向性を感じてしまい、ホンネとは裏腹に簡単には肯定できない。タテマエをいえば、昇進や報奨金が無くても公開授業&検討会に参加してほしいものである。

公開授業によって何をめざすのか：検討会の議論を通して当該教員の授業能力の向上を図ることはもちろんのこと、参観教員にとっては授業改善のモデルとなる可能性もある。決して優れた講義だけを公開の対象としているのではなく、芳しくなくとも種々の点で参考になることもあり得ると考えて実施している。

授業公開に関する配慮事項：最近多くの大学で試行されている全学一斉公開授業は、ほとんど参観者がいないということであり、ほとんど失敗している。

以上、やや雑駁に講演会の概要を記したが、最後に、拙い講演をご静聴いただいた撰南大学の先生方ならびに今回のチャンスを与えて下さった撰南大学のFD関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

今後のFDへの取り組み
国立大学法人化の影響
意欲的な学生の参加を求める
公開授業&検討会の充実



摂南大学における授業公開の現状と課題

F D委員会委員・法学部 三成 美保

授業公開の名宛人

摂南大学では、過去に試行も含めて3回の授業公開が試みられた。目標や方法はそのつど変化している。これは授業公開そのものがまだ試行錯誤の段階にあることを意味する。

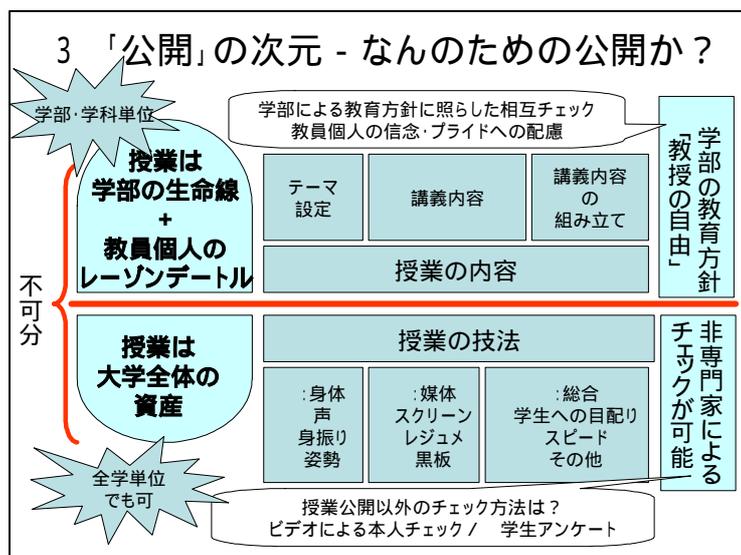
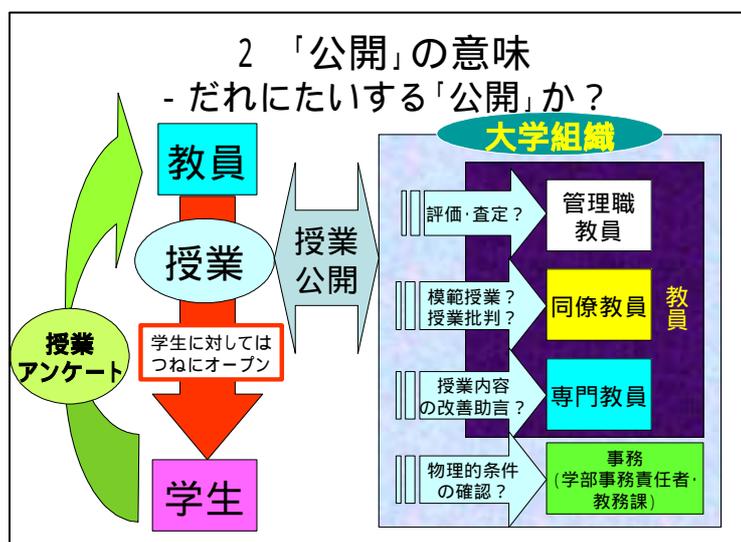
授業公開はだれに対する公開なのか。そもそも、授業は学生に対してはつねにオープンである。しかし、授業公開は、学生に対するオープンな関係は含まない。もっぱら大学組織あるいはその関係機関に属するさまざまな教員や職員を名宛人にする。

授業公開の目的

授業そのものが本来的にオープンであるにもかかわらず、授業公開にはやや過敏に反応しがちである。なぜか。目的が読めないからである。授業公開はその名宛人によってさまざまな目的をもちうる。たとえば、管理職教員ならば評価や査定のため、同僚教員の場合には授業を参考にするためか、授業のやりかたを批判するためかのどちらかである。

いずれにしても授業内容を理解した上での聴講とは言えない。しかし、専門がごく近い教員ならば授業内容に立ちいった判断が可能である。他方、部屋の狭さや照明・空調などの物理的条件を確認するために事務職員が聴講する場合も想定できる。

摂南大学では、これまで同僚教員に対する公開を基本としてきた。前回から「模範授業のための公開」という目的を鮮明にうただしている。それは、研修としての模範授業の自主的聴講を通じて改善をはかるといふ教員の自覚と努力にまかせようとの趣旨であ



るが、聴講者数は少なく、公開は形だけの実績に終わっているのが実情である。

授業公開を通じた授業改善とは？

授業にはいくつかの次元があり、内容と技法が重要な柱である。内容にはテーマ設定・内容・その組み立てなどが含まれ、技法には、声身振りなどの動作やさまざまな媒体の使い方、目配りやスピードなどが含まれる。学部の教育方針に照らして内容をチェックする必要はあるが、教員個人の信念は最大限尊重しなければならない、管理職といえどもこれを侵害するべきではない。改善の対象は技法に限定されるべきであるが、ただし授業公開が唯一の合理的な方法とは限らない。他の方法と有機的に結びつける方策は検討の余地がある。

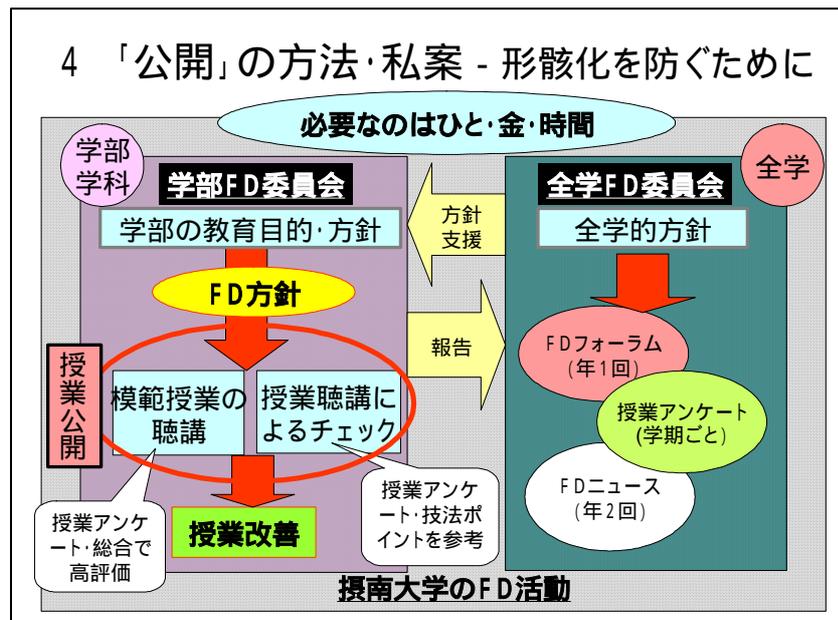
授業内容と技法を分けるべきであるとするれば、内容については教育方針との関係で学部・学科ごとのチェックが必要であるが、全学規模の公開になじむのはせいぜい授業技法に関する側面だけである。ただ、2つが不可分であるのも事実であり、そこに困難がある。

授業公開の方向性

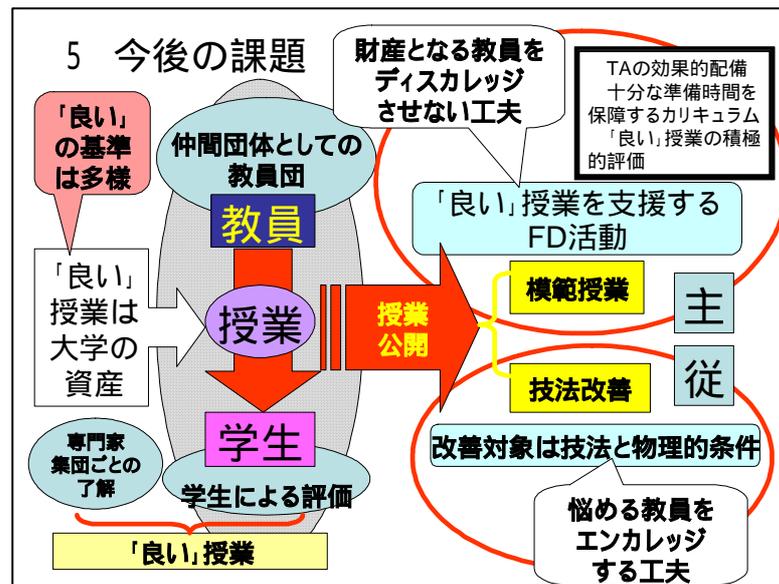
授業公開の方向性としては、全学的方針のもとに学部・学科単位でFD委員会を組織して十分な合意のもとに運営すべきである。全学FD委員会は方針をたてるとともに、フォーラムやアンケート・ニュース等を従来通り担当し、学部FD委員会は学部ごとの教育目的に即したFD活動を担う。模範授業にも技法改善のためのチェックにも授業アンケートを活用することは合理的であるが、活用の仕方には工夫が必要であろう。たとえば、授業公開による改善チェックは、アンケートでの授業技法ポイントが低い部分について限定的に対策を検討するなどである。その意味では授業アンケートの質問項目にも検討の余地があるかもしれない。学部FD活動は随時全学FD委員会に報告して、協力関係を維持し、全学ならでのFD活動に生かす。学部で立脚してこそそのFD活動である。

授業公開の課題

授業公開はだれのためになんのために行うのか？目的が授業改善にあるとしても、教員の合意が生まれにくいのは「良い/良くない」の判断が多様だからである。また、改善指導が可能な部分と他人が介入すべきではない部分がある。



必要なのは発想の逆転ではないか。たとえば、良くない授業の底上げをはかるのではなく、授業公開の主目的を「良い」授業の積極的評価に置く。教員の仲間意識を損なうような授業公開は無意味である。良い授業の基準は確かに多様であるが、少なくとも仲間教員と学生から支持を得た授業は効果的という意味で「良い」と評価で



きる。授業公開をこうした良い授業を支援するためのシステムの一環として活用できないものか？公開がめざす模範授業と技法改善のうち、技法改善は対象を限定し、改善の余地がある場合に限って対策を講じる。改善が無理な場合（本人が拒否する場合・非協力的な場合・努力しても無理な場合など）には深追いしない。教員を追いつめる必要はないし、時間とエネルギーのムダである。

「良い」授業を提供できる教員を「大学資産」として厚遇するシステムづくりとしては、たとえば、TA配分率を高くする・授業負担をむしろ軽くして大学の目玉となる講義を担当させるなどが考えられる。授業公開の主目的を良い授業を支援するための教員団の合意形成におき（そのために公開する）技法改善は従となる目的として位置づける。真の意味で授業公開を評価や改善に生かすならば、専門職が必要であろう。それが無理ならば、せめて評価・改善指導等を担当する教員の負担減が望まれる。授業公開に必要なコストを省くならば、結局、公開は自己目的化して形骸化するだけであろう。授業公開はFD活動全体のなかで役割を果たしてこそ意味がある。公開の実績づくりだけでは無意味である。

摂南大学のFD活動はいまや教員啓蒙の時期を終え、具体的な成果をあげるために何ができるかを真剣に考えるべき段階にきている。そのためには学部・学科単位のFD組織に基礎をおいた全学FD組織の再編が不可欠である。むしろ、教員の意識改革が必要なのは言うまでもない。しかし、意欲ある教員から安定的に魅力ある授業をひきだすためにもっとも必要なのは、ヒト（教育補助）・カネ（教育環境の整備予算）・モノ（教育設備の改善）である。大学の貴重な教育予算をどう配分するか。授業公開をそのための検討機会の1つとして位置づけることもあながち不適當ではない。

薬学部における授業公開の現状と今後の課題

F D 委員会委員・薬学部 荻田 喜代一

F D 活動の一貫として、授業改善のために授業公開が重要なことは衆目の一致するところであろう。しかしながら、その効果的な運営には多くの問題点と課題がある。ここでは、薬学部の授業公開の現状と今後の課題について簡単にふれたい。

実施前の反響

実施前の多くの教員の反響は「多忙なので授業を聴講できない」「授業公開の意義が明確ではない」「教員評価に使われるのでは？」等々であり、授業公開の実施にはきわめて消極的であった。しかしながら、薬学部としても実施していく中こそ意義を見出せるとの立場で前向きに取り組むこととなった。



実施状況

公開授業期間に全教員が授業を公開している

なぜ?

- 多くの教科の講義内容の情報交換の場としよう!
- できるだけ多くの教員のスキルを学ぼう!
- 特定の教員のみがさらし者になるのがイヤ!

しかし

- ほとんど(まったく)聴講されない
- 若手が教授の授業を聴講することに気がつかう
- 特定の教員を指名された方が聴講しやすい

したがって

- 全教員が授業を公開するが、特に優良な授業、評判のよい授業を学部長が選定した

実施状況と利点

授業公開を通して、「多くの授業の相互理解の場としよう」「できるだけ多くの教員の授業スキルを学ぼう」などの考えから、全教員が授業公開を行うこととした。しかしながら、全員公開でかえって聴講しにくいという弊害が出てしまい、聴講者は皆無であった。したがって、現在では全教員が授業公開を行うが、その中で特に聴講してほしい優秀な授業を選んで聴講を呼びかけている。

授業の聴講により学生を引きつける授業とそうでない授業の相違点が少しずつ実感できているのではないだろうか。たとえば、「学生の目を見て授業をしているか?」「明瞭な話し方をしているか?」「説明が明確か?」「適切な間合いをとっているか?」「板書等を有効利用しているか?」等々である。

実施後の反省・感想

実施教員へのフィードバック

- メールで実施教員へ感想を送付した
- 良い点を中心にフィードバックした。
- 悪い面はフィードバックしにくい

聴講教員への影響

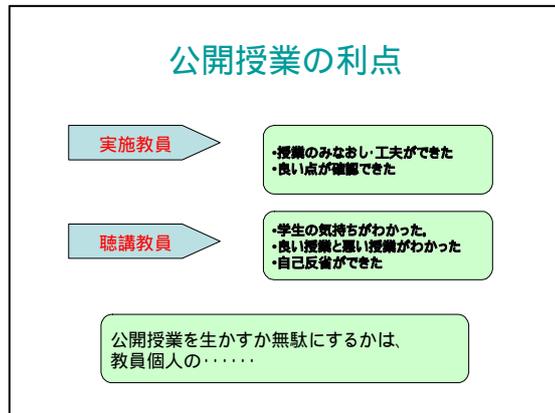
- 良い面を探すことで、自分の授業への参考となった
- 授業科目により授業の難易度が違うことが理解できた
- 悪い面が明確となる

問題点と今後の課題

現在の最大の問題点は、授業公開への参加があまりにも少ないことである。最近、

若手教員から教授の授業の聴講は気を遣うなどの話を聞く。若手教員こそ自己啓発の場として授業公開に積極的に参加してもらいたいものである。その意味で、今後の課題としては若手教員の参加呼びかけを積極的に行っていくべきであろう。また、授業終了後の講評等はメールのみで行っているが、反省会等を行うべきかもしれない。それも今後の課題である。

授業公開を意義のあるものにするか否かは我々教員の姿勢で決まるであろう。成長する授業は学生の成長につながると確信している。「最近の学生は私語が多い」「最近の学生は授業中によく居眠りをする」という前に、自分の授業を振り返り、プロ意識をもって自分の授業スキルを磨きたいものである。「学んだことの唯一の証は変わることである」といわれるように、授業公開を通して自分自身が変わることが何より大事ではないでしょうか



誰のための何のための授業公開か？

F D 委員会委員・工学部都市環境システム工学科 熊谷 樹一郎

授業公開の目的とは

授業公開の役割を考えていく上で、その目的を明確にする必要がある。まずは一般論を取りまとめてみようとしてホームページを検索してみたが、授業公開の目的を明言しているものは非常に少なかった。このあたりの現状に、授業公開の問題点が潜んでいるような感じもある。

ここでは、鹿児島大学学長の永田行博氏が学内の教員向けにアナウンスした文を次のように引用する。

授業公開の目的とは

- 一般的には
「公開された授業を**見学**し、その**長所**や**短所**を**批評し合う**ことによって、より内容や質の高い新しい授業への飛躍の**きっかけ**とする」

(鹿児島大学長 永田行博)

「公開された授業を見学し、その長所や短所を批評し合うことによって、より内容や質の高い新しい授業への飛躍のきっかけとする。」

この文には、2つのキーワードが内在している。一つ目は「見学」である。授業公開はあくまでも教員の見学者がいて初めて成り立つものである。如何にして見学者を確保し、授業公開実施者と見学者双方の改善策にその結果を反映していけるか、といった点が基軸となることを示している。

二つ目は「きっかけ」である。授業公開を実施するのみでFD活動が完結するわけではない。あくまでもFD活動の一環として位置づけられるものであり、FD活動全体の構成と授業公開の役割を整理した上で取り組んでいく必要があることを示唆している。

公開することで誰に効果があるか

授業公開の直接的な対象は教員であることに疑う余地はない。したがって、教員の教授法そのものに効果がなければならない。その一方で、授業公開の性質上、教員の立場によっては“つるし上げ”になってしまう可能性もある。既知のように“つるし上げ”からは何も生まれてこないどころか、マイナス効果も危惧される。授業公開の実施には配慮が必要な点と指摘できるであろう。

問題提起

授業公開を行っていく上での問題点を次の3点に整理する。

(1) 教授法の問題

最大公約数的な教授法(授業の技法)が整理されておらず、批評し合うにしても共通の土俵がない状態である。これが整理できれば、授業公開用の評価基準の一部が共有できることになる。授業内容の専門性が深くなるにつれて、最大公約数的な教授法について議論

する必要性は高くなることから、例えば教授法を対象にプレゼンテーションのチェックシートのようなものを作成し、批評し合う際の材料として採用していくことなどが望まれる。

(2) 意思統一の問題

授業公開の目的と意義に対して、教員全体の意思統一が図れていない。教授法に対する探求心は必須であるが、自らの

教授法に「可もなく不可もなく」といった印象をもっているだけでは、実施者・見学者として積極的に参加する意欲はわからないであろう。教授する相手は年々変化していく。不断の努力を惜しまない意思を共有できる環境作りが必要となる。

問題提起(1)

- 最大公約数的な教授法(授業の技法)が整理されていない

– プレゼンのチェックシートのようなものがあればベストか？

プレゼンチェックシートの例

- (1) 発表内容
- (2) 発表態度
- (3) 質疑への対応
- etc.

問題提起(2)

- 授業公開が有用なFD活動であるとの前提の下で、その目的と意義に対する意思統一が図れていない

– 教授法に対する探求心が必須

– 自分の教授法は「可もなく不可もなく」の認識であれば参加する意欲がわからないか？

(3) FD活動のシステム化について

FD 活動を進めていく上で課題となる点として形骸化が挙げられるが、授業公開にもそれは当てはまるであろう。これは、FD 活動全体にまだ十分に有機的なリンクが張られていないことを意味する。授業評価アンケートや講習会などを含めた FD 活動のシステム化が望まれる。

問題提起(3)

- FD活動がシステム化されていない

– 実施することが目的に(形骸化)

– 枠組み・土台がない

– 授業評価アンケートなどとの有機的なリンクは必要ないか？

「第12回FDフォーラム」開催のお知らせ

摂南大学全学FD委員会はこれまで年に3回のFDフォーラムを開催し、そのテーマとしてはなるべく全学の関心を惹くような題材を選んできています。今期のFD委員会では、全学的なテーマの他に、各学部に関係が深い個別的なテーマでのフォーラムも開いてはどうかという意見が出されました。そこで、まず工学部がそのテストケースとして第12回FDフォーラムを主催し、全学FD委員会がそれを後援するという案を採択しました。

今回は、工学部出身のFD委員と工学部 JABEE 小委員会との共同企画で下記のようなスケジュールとテーマのFDフォーラムを予定しています。内容としては工学部寄りとは思われますが「外部評価」という重要な題材も含まれていますので、工学部以外の教職員の皆様方も多数参加していただきたいと考えています。

スケジュールとテーマ（予定）

2006年3月18日(土) 13:00 - 15:00

寝屋川学舎 11号館 11階 第5会議室(スカイラウンジ)

テーマ：「工学部の教育改革 外部評価に向けた取り組み」

「工学部の JABEE に向けた取り組み」

「金沢工大の視察報告」

「学習支援センターの現状と発展」

FD委員会から

- 既にご案内しておりますが、摂南大学FD活動報告集を本年度中に発行する予定です。各学部・学科だけでなく、グループや個人でのFD活動も紹介することとしています。グループや個人でのFD活動もまだまだ件数が少ないので、続いて投稿していただきますようお願いいたします。
- 皆様からのご意見を紙面でも紹介したいと考えています。随時、メールで結構ですから、FD委員もしくは教務課 (kyomu@ofc.setsunan.ac.jp) までお寄せ下さい。
- 次号のFDニュース第16号は2006年3月に発行の予定です。